

[リコールナビ・レポート]

[2006-2007] 食品 プレビュー 第1版

リコールナビ

[2007.08]

作成者: リコールナビ管理人 菊地 帝一

目次

本書について.....	2
リコールナビ.....	2
「食品」カテゴリ.....	3
月別リコール・回収データ.....	3
解説.....	3
リコール・回収理由.....	4
解説.....	4
食の安全への関心の高まり.....	5
総括.....	6



[リコールナビ・レポート]

[本書の説明]

本書について

「リコールナビ・レポート」とは、リコール・回収情報まとめサイト「リコールナビ」が2006年9月のサイトオープン以来、過去1年間に掲載したリコール情報を、月別や原因別にまとめたものである。

本書は、そのプレビュー版として、食品カテゴリのみの簡易な内容とし、すべてのカテゴリが掲載された正式版は、2007年9月に有償にて発行予定である。

「リコールナビ」への情報掲載は、できる限り正確に掲載することに努めているが、管理人が把握しきれない情報(特に発生件数など)もあるため、本書を利用して発生した損害などについては、一切の保証を行わない。

そのような点を考慮しつつ、リコール・回収件数の推移や、原因の把握、その対策の参考にしていただければ幸いである。

リコールナビ

<http://recall-navi.com/>

2006年9月運営開始

運営者: 菊地 帝一(きくち たいいち)

E-mail : kanri@recall-navi.com

本書の内容や、サイトに関するご質問・ご意見は、上記のメールアドレス宛てにお願いいたします。

「食品」カテゴリ

月別リコール・回収データ

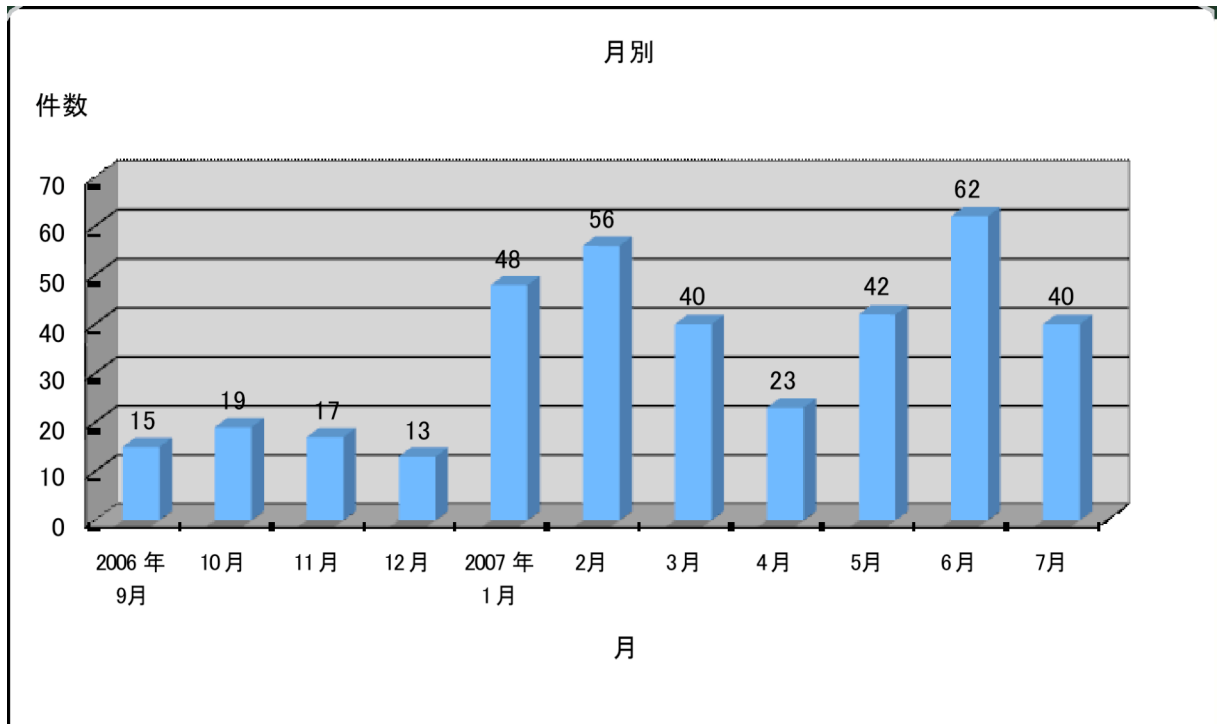


表1 一月別リコール・回収件数

解説

「食品」カテゴリの2006年9月から2007年7月までの総数は、375件となっており、すでに1日1件以上のペースでリコール・回収が発生している。

特に2007年に入ってから伸びが非常に多く、これは、

- ・不二家の期限切れ原材料使用から派生した、賞味・消費期限切れ問題。(1月、2月)
- ・原材料にガンマ線が照射された可能性の食品の回収(6月)
- ・ミートホープ社の原材料を使用した食品の回収(6月)

の影響が出ている。

また、これらに関する報道の増加により、生産者・消費者共に、食品の安全に対する意識が強くなったことも件数が上昇した理由の一つと考えられる。

リコール・回収理由

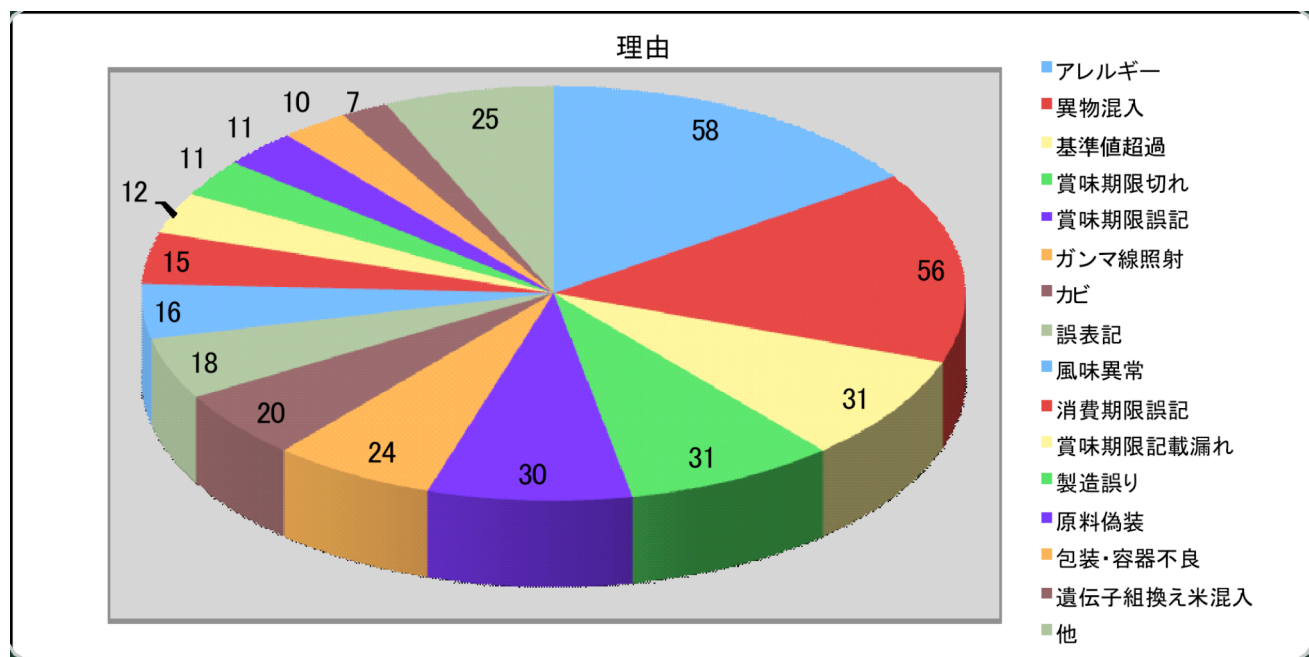


表 2-1 リコール・回収理由

解説

リコール・回収理由で最も多いのは、アレルギーに関するものである。

必ず表示されなければならない「卵・乳・小麦・そば・落花生」の表示欠落や、製造者の意識のないところで原材料への混入などが主な内容であるが、消費者にとっては結果としてアレルギー物質を摂取することになり、場合によっては命の危険性もある。

製造時のアレルギー物質に対する監視の徹底や、回収発生時に情報が確実に届く仕組みを、早急に構築する必要があると感じる。

次いで多いのが、異物混入である。

異物といっても多種多様であり、虫、ガラス片、メッキ片、プラスチック片、金属片、銅線、虫ピン、まち針、カッターナイフの刃、散弾銃の散弾、紙、ビニール、はてはネズミというものもあった。

混入する場所としては、製造時というケースと、原材料というケースがあり、製造時の手順や配置、チェック体制を改善することで混入を防げるのではないと思われる。

次に、基準値超過であるが、これは農薬の残留量が多い事例や、食品添加物、菌類が基準を超えていたということである。

いずれも健康を害するほどの超過量ではないとのことだが、直接体内に入るものであり、より一層慎重な安全管理を望みたい。

食の安全への関心の高まり

2007年早々、社会を揺るがした食の事件といえば、不二家の期限切れ原材料使用問題である。

この事件を契機に、各社、期限切れ材料を使っていないか、総確認をしたはずだ。

実際に問題が発覚し、お詫びや回収する事態になったメーカーもあることが、リコールナビからのデータでもわかる。

最近では、期限切れの材料を使ったという回収理由は少なくなったが、これが各社の管理体制が強化されたことによるものであり、決して隠ぺいされているものではないと信じたい。

また、期限切れに限らず原材料に問題があれば、当然それを使用した製品にも問題があることになる。

遺伝子組換え米の混入、ガンマ線が照射された可能性のある原材料を使用、などで多くの製品が回収対象となった。

原材料という点からいえば、ミートホープ社の件は「偽装」であり、先に述べた原材料の問題とは性質が異なり、立派な詐欺であると感じる。

コストを下げるために安い原材料を使用した揚句、その原材料が信頼できるものであるか、チェックするのにコストがかかるようでは、本末転倒であると思うが、消費者はそのブランドを信用して購入するのであり、出来上がった製品がすべてである。

食の安全に対する意識が高まっている昨今。各メーカーは、より一層安全管理の向上を目指していただきたい。

総括

リコールナビがカテゴリ分けしている情報の中で、食品の件数が1番多い。

しかし、それでもすべてを掲載しているわけではなく、掲載漏れも多数あると思われる。

リコールナビでは、可能な限り、各社のホームページへリンクするようにしているのだが、ホームページが存在しない、あっても告知がないなど、インターネットを使用した情報開示が遅れていると感じる。

もちろん、会社の規模や業務内容によって、ホームページを持たない企業も多くあるだろうが、ブログなど無料で使えるサービスも複数あり、費用を掛けずに情報を発信する手段はあるので、是非そういったサービスを利用し、積極的な情報発信をお願いしたい。

通信販売や交通網の発達により、一定の地域でしか販売されていないと思われていたものが、はるか遠くで消費されている可能性がある昨今。問題が発生しないよう対策するのはもちろんだが、問題が発生した場合に、生産者、販売店、各自治体が連携し、全国の消費者へ素早く、確実に情報が伝わる仕組みを構築する必要があると感じている。